



2026年9月9日掲載

円高は続くのか

ドル円相場はこのところ、1ドル=160円台から154円台まで円高方向へ動きました。しかし、日本経済が急に強くなったわけでも、米国経済が急に悪くなったわけでもありません。

現状ではファンダメンタルズの大きな変化というより、ベッセント米財務長官の発言や日米協調介入を受けて、投機筋が円安一辺倒の見方を修正している面が大きいと考えています。

今後の注目は米連邦準備理事会(FRB)の政策変更です。仮に米国で追加利上げが行われれば、日米金利差の観点からは、円高が進みにくくなるでしょう。しかし最近の米雇用統計では、賃金上昇率が低下しており、持続的なインフレ圧力は弱まっています。

現在、市場が警戒しているインフレ要因は、イラン情勢や原油価格など短期的なものが中心になっています。そのため、FRBが利上げを続けなければならない必然性は、以前より低下しているように見えます。市場も追加利上げについては、五分五分程度の見方になっています。

一度利上げが行われたとしても、それが長期的な引き締め局面になるとは見えていません。賃金上昇率低下で、インフレ率も時間をかけて低下していくとみているからです。一方、日本では賃金上昇を背景に日銀の利上げ余地が残っています。

したがって、ドル円は当面上下に振れやすいものの、長い目で見れば日米金利差は縮小方向に向かうと考えています。短期的な値動きに振り回されず、中長期の変化の兆しを待ちたいと考えます。

(アモーヴァ・アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

※2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社はアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更しました。

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》